

リトゥンアフターワーズ writtenafterwards

ここにいてもいい It's Alright To Be Here

山縣良和と綴る possibility of fashion expression written with Yoshikazu Yamagata

ファッション表現のかすかな糸口



《It's Alright To Be Here》2024 撮影：エレナ・トゥタッチコワ

神話などからインスピレーションを得た物語的コレクションで知られる山縣良和のファッションレーベル〈リトゥンアフターワーズ (writtenafterwards)〉。そのノスタルジックな表現は、〈装う〉心の純粹性を追求しながらも、3.11からの再生を祈った《The seven gods》、ファッション業界へのアイロニーを込めた《Graduate Fashion Show》、戦後と日本人の集団性をテーマにした《After Wars》、コロナ禍の都市を離れ無人島で描いた新しい人間像《Isolated Memories》など、資本主義社会や歴史観への問題提起を大胆に織り込み、常にファッションの領域をこえた注目を集めてきました。また、教育者としても知られる山縣はファッションの私塾〈coconogacco (こののがっこう)〉を主宰し、参加する一人ひとりが生きる場所や社会を見つめ、「ここ」から独自の表現を立ち上げていく学びと実験の場をひらいています。

美術館で初の個展となる本展「ここにいてもいい」では、リトゥンアフターワーズのこれまでの歩みを紹介するとともに、山縣が考える日本社会とファッション表現の〈いま/ここ〉を新作インスタレーションで浮かび上がらせま​​す。「日々ニュースから飛び込んでくるウクライナとガザの悲劇、そして能登半島地震と、個人では消化しきれない歴史の大きなうねりの中で、いま自分が表現できるのはとてもパーソナルなこと」と語る山縣。“writtenafterwards”とは、〈あとがき〉や〈追記〉を意味します。ファッションを通して常に自己と社会に向き合ってきた山縣は、混迷が続く私たちの世界にどんなストーリーを書き加えるのでしょうか。

[開催概要]

リトゥンアフターワーズ written afterwards

ここにいてもいい It's Alright To Be Here

山縣良和と綴る Possibility of fashion expression
written with Yoshikazu Yamagata

ファッション表現のかすかな糸口

4.27_[Sat] – 6.16_[Sun], 2024



タイトル：ここにいてもいい リトゥンアフターワーズ：山縣良和と綴るファッション表現のかすかな糸口

会期 | 2024 年 4 月 27 日 [土] – 6 月 16 日 [日] (水曜休館)

内覧会 = 2024 年 4 月 26 日 [金] 午後 2 時 – 午後 6 時 (午後 1 時 30 分受付開始)

* 山縣氏と担当学芸員が作品解説をおこなうプレス向けツアーは午後 2 時 – 午後 3 時 30 分に実施します。

* 本資料に添付の「プレスツアー申込書」にて事前にお申し込みください。

開館時間 | 午前 10 時 – 午後 6 時 (入場は午後 5 時 30 分まで)

主催 | アーツ前橋

入館料 | 一般 = 800 円 | 学生・65 歳以上・団体 (10 名以上) = 600 円 | 高校生以下 = 無料

後援 | 上毛新聞社、群馬テレビ、FM GUNMA、まえばし C I T Y エフエム、前橋商工会議所

協力 | 東京藝術大学宮本武典研究室、FashionStudies®, PENSEE GALLERY

* 障がい者手帳等をお持ちの方と介護者 1 名は無料

* 「こどもの日」の 5 月 5 日 [日・祝] は無料

[アーティストプロフィール]



Photo: Takashi Honma

山縣良和 (やまがた・よしかず)

1980 年鳥取生まれ。2005 年セントラル・セント・マーチンズ美術大学卒業。2007 年、ファッションレーベル「writtenafterwards (リトゥンアフターワーズ)」を設立。「装うことの愛おしさを伝える」をコンセプトに、既成概念にとらわれない様々なファッション表現を試みる。2009 年にオランダ・アーネム・モード・ビエンナーレにてオープニングファッションショーを開催。2015 年には、日本人として初めて LVMH Prize にノミネート。また、デザイナーとしての活動のかたわら、ファッション表現の実験と学びの場として「coconogacco (こののがっこう)」を主宰。多くのデザイナーやアーティストが輩出し、2021 年には、第 39 回毎日ファッション大賞 鯨岡阿美子賞を受賞。近年の主な展覧会出展に、2017 年「装飾は流転する」東京都庭園美術館、2019 年-20 年「アジアのイメージ」東京都庭園美術館、2021 年「ファッションインジャパン」国立新美術館、2023 年「ミレーと 4 人の現代作家たち」山梨県立美術館など。



《The seven gods》2012

美術館がファッションの〈メゾン／家〉になる？

フランス語の“maison (メゾン)”は〈家〉を意味しますが、ファッション業界では店や会社を指します。本展のメインギャラリーで山縣は、2024年現在の日本社会を表象する〈メゾン／家〉を、リトゥンアフターワーズの過去のコレクションと、群馬県内の空き家や廃屋から移設した家財道具を組み合わせて表現します。

その最後の部屋に追記 (written afterwards) されるのは、何気ない家族の情景や子供服からインスピレーションを得た最新コレクション。そこには昨年父親となり、東京で子育てをはじめた山縣個人のパーソナルな変化が色濃く反映されています。“異次元の少子化”に沈みゆく日本の風景のなかで、ファッションを通して自己と社会に向き合ってきた山縣は、どのような“かすかな糸口”を私たちに示すのでしょうか。元商業施設をコンバージョンしたアーツ前橋の全館を使った、ストーリーテリングのような展示構成にもご注目ください。



《After Wars》2017



《After All》2019



《Isolated Memories》2023



《Field Patch Work》 2023



《It's Alright To Be Here》 2024 撮影：エレナ・トゥタッチコワ

ファッション表現の可能性を、多声的に「綴る」場をひらく。

山縣は私塾でありながら多くのデザイナーや国際コンテスト受賞者を輩出する「coconogacco」を主宰し、渋谷PARCOの9階では10代の学び舎「GAKU」を立ち上げ、ディレクターを務めています。本展ではこうした教育者としての山縣の思想と実践を伝える「それぞれの個性を育む学び場」を展示室内に開設。また、群馬県桐生市出身の写真家・石内都や、『スマホ時代の哲学』で知られる気鋭の哲学者・谷川嘉浩らとのトークセッションを行い、衣服の展示だけでなく対話やテキストでも、ファッション表現の過去・現在・未来について綴っていきます。



桐生の織物工場にて



《Gassho》2020 撮影：田附勝



coconogacco の授業 Photo : Chikashi Suzuki



アトリエ風景 Photo: Shuichiro Miura

〔トークプログラム〕

vol.1 「山縣良和へのインタビュー “ここにいてもいい？”」

本展アーティストの山縣良和と担当キュレーター宮本武典が、展覧会ができるまでを解説するオープニングトーク。

日時・会場 | 4/27 [土] 午後3時～午後5時 (午後2時30分開場) / アーツ前橋スタジオ

講師 | 山縣良和 × 宮本武典 (本展キュレーター、東京藝術大学准教授)

定員 | 40名 (参加無料 / 要予約・観覧券)



左より 石内都／畑中章宏 (Photo : Shunta Ishigami) ／谷川嘉浩／津野青嵐 (Photo : Shikana Kohei)

vol.2 「物語る衣服たち」

広島の被爆者やフリーダ・カーロの遺品など、〈亡き人々〉の衣服を撮り続ける石内都と、その写真作品から多くのインスピレーションを得てきた山縣良和。二人による衣服の〈モノがたり〉。

日時・会場 | 5/12 [日] 午後3時～午後5時 (午後2時30分開場) ／アーツ前橋スタジオ

講師 | 石内都 (写真家) × 山縣良和

定員 | 40名 (参加無料／要予約・観覧券)

石内都 (いしうち・みやこ) ……1947年群馬県桐生市生まれ。神奈川県横須賀市で育つ。2005年、「Mother's」で第51回ヴェネチア・ビエンナーレ日本館代表作家に選出される。2007年より現在まで続けられる被爆者の遺品を撮影した「ひろしま」も国際的に評価され、2013年紫綬褒章受章。2014年ハッセルブラッド国際写真賞を受賞。2015年、J・ポール・ゲティ美術館 (ロサンゼルス) 「Postwar Shadows」個展。2017年「肌理と写真」個展、横浜美術館。2024年、古い着物と帯でスカジャンをリメイクした Haoru Kiryu を発表。

vol.3 「蚕と日本人の古今東西」

養蚕に強い関心を持ち、作品に取り入れてきた山縣。第3回の対話では『蚕: 絹糸を吐く虫と日本人』の著者・畑中章宏と、蚕の歴史と文化を掘り下げながら、その生命の循環の延長線上にあるファッションのあり方を探ります。

日時・会場 | 5/19 [日] 午後3時～午後5時 (午後2時30分開場) ／アーツ前橋スタジオ

講師 | 畑中章宏 (民俗学者) × 山縣良和

定員 | 40名 (参加無料／要予約・観覧券)

協力 | FashionStudies®、jenelyno®

畑中章宏 (はたなか・あきひろ) ……1962年大阪府生まれ。民俗学者。著書に『柳田国男と今和次郎』『日本残酷物語』を読む (平凡社新書)、『災害と妖怪』『忘れられた日本憲法』 (亜紀書房)、『天災と日本人』『廃仏毀釈』 (ちくま新書)、『蚕』 (晶文社)、『21世紀の民俗学』 (KADOKAWA)、『死者の民主主義』 (トランスビュー)、『五輪と万博』『医療民俗学序説』 (春秋社)、『宮本常一』 (講談社現代新書) ほか。

vol.4 「生き抜くためのファッション教育 – coconogacco のアトリエから」

coconogacco 設立から 16 年。「世界と自分自身の装いの原点に向き合いながらファッションを学ぶがっこう」の歩みを振り返りながら、そのメソッドの今日性について考えるトークセッション。

日時 | 6/1 [土] 午後 6 時 10 分～午後 7 時 30 分頃 *午後 5 時 40 分よりアーツ前橋 1F エントランスで受付開始

講師 | 谷川嘉浩 (哲学者) × 津野青嵐 (アーティスト) × 山縣良和

会場 | アーツ前橋 地下ギャラリー

定員 | 50 名 (参加無料/要予約・観覧券)

谷川嘉浩 (たにがわ・よしひろ) ……1990 年兵庫県生まれ。哲学者など。京都大学大学院人間・環境学研究科博士後期課程修了。博士 (人間・環境学)。現在、京都市立芸術大学美術学部デザイン科講師。単著『人生を外れるための衝動のみつめかた』(筑摩書房)、『スマホ時代の哲学』(ディスカヴァー・トゥエンティワン)、『鶴見俊輔の言葉と倫理』(人文書院) など。共著『ネガティブ・ケイパビリティで生きる』(さくら舎)、Whole Person Education in East Asian Universities, Routledge など。

津野青嵐 (つの・せいらん) ……1990 年生まれ。アーティスト・ファッションデザイナー・看護師。看護大学を卒業後、精神科病院で約 5 年間勤務。病院勤務と並行して「coconogacco (こののがっこう)」で学ぶ。2018 年、欧州最大のファッションコンペティション“International Talent Support”にて日本人唯一のファイナリストに選出され、3D ペンで作った服が目玉される。2019 年「当事者研究」発祥の地である北海道「浦河べてるの家」(精神障害当事者等の地域活動拠点)に勤務(2022 年退職)。現在は東京工業大学修士課程にて、「ファット」な身体との付き合い方を、衣服の共同制作を通して研究中。

キュレーター・トーク

当館の学芸員がツアー形式で会場をご案内し、各展示室の成り立ちやコンセプト、見どころなどを解説します。

日時・会場 | 会期中の隔週土曜日 午後 1 時～午後 2 時 (5/4 土、5/18 土、6/1 土、6/15 土) / アーツ前橋

定員 | 各回 20 名 (参加無料/要予約・観覧券)

【本展のタイアップイベントを渋谷PARCO 9 階 GAKU で開催】

Think of Fashion® Study 005 アート講座④「山縣良和と綴るファッション表現のかすかな糸口」

ファッションを体系的に学ぶ場を運営する「FashionStudies®」と連携し、本展のタイアップイベントを渋谷 PARCO で開催します。ファッションを通して常に自己と社会に向き合ってきた山縣良和と、東日本大震災の被災地や東京都心の多文化空間でアートプロジェクトを立ち上げてきた本展キュレーターの宮本武典が、ファッション & アートだけでなくローカルなものづくりや美術教育など、さまざまな角度から本展の試みについて語ります。

日時・会場 | 2024 年 3 月 8 日 [金] 午後 7 時開催 (定員 30 名) / GAKU (渋谷 PARCO 9 階)

講師 | 山縣良和 (リトゥンアフターワーズ)、宮本武典 (キュレーター/東京藝術大学准教授)

主催 | FashionStudies®

お申込 | 右記 QR コードのイベントページにて詳細情報を確認のうえお申し込みください。



FashionStudies®

イベントの内容は変更になる場合があります。下記の展覧会ホームページで最新情報をご確認ください。

<https://www.artsmaebashi.jp/?p=19899&preview=true>



アーツ前橋 WEB

[広報用画像]



1



2



3



4



5



6



7



8

1 リトゥンアフターワーズ 《It's Alright To Be Here》2024 撮影：エレナ・トゥタッチコワ

2 山縣良和 《Field Patch Work》2023 撮影：田附勝

3 展覧会ポスター (デザイン：須山悠里)

4 山縣良和 (撮影：ホンマタカシ)

5 リトゥンアフターワーズ 《Isolated Memories》2023 撮影：濱田祐史

6 リトゥンアフターワーズ 《After All》2019 撮影：濱田祐史

7 リトゥンアフターワーズ 《After Wars》2017

8 リトゥンアフターワーズ 《The seven gods》2012

お問い合わせ | アーツ前橋 【広報】 酒井・石井 TEL:027-230-1144 E-mail: artsmaebashi@city.maebashi.gunma.jp

リトゥンアフターワーズ written afterwards

ここにいてもいい It's Alright To Be Here

山縣良和と綴る Possibility of fashion expression
written with Yoshikazu Yamagata

ファッション表現のかすかな糸口

4.27 [Sat] – 6.16 [Sun], 2024



広報用画像申込書

記事掲載についてのお願い。

※掲載にあたっては、展覧会名と会期を表記してください。

※画像等を掲載する場合は、キャプション・クレジット等を正確に表記してください。

※掲載記事やVTRは、資料として保管いたしますのでアーツ前橋までご送付ください。

※取材及び収録等の際は、必ず事前にお問い合わせください。



アーツ前橋 広報担当 宛 FAX 027-232-2016

ご希望の画像の番号に○をつけてください。画像(JPEG)をメールにてお送りいたします。

※画像の使用は本展覧会の広報目的に限り、個人ブログ等への掲載や鑑賞等を目的とする場合には提供できません。

※掲載にあたっては、キャプション・クレジット等を正確に表記してください。

番号	キャプション・クレジット等
【1】	リトゥンアフターワーズ 《It's Alright To Be Here》2024 撮影：エレナ・トゥタッチコワ
【2】	山縣良和 《Field Patch Work》2023 撮影：田附勝
【3】	展覧会ポスター (デザイン：須山悠里)
【4】	山縣良和 (撮影：ホンマタカシ)
【5】	リトゥンアフターワーズ 《Isolated Memories》2023 撮影：濱田祐史
【6】	リトゥンアフターワーズ 《After All》2019 撮影：濱田祐史
【7】	リトゥンアフターワーズ 《After Wars》2017
【8】	リトゥンアフターワーズ 《The seven gods》2012

媒体情報（できるだけ詳しくご記入ください）

媒体名：	
発行日：	発行元：
貴社名：	
部署名：	担当名：
所在地：	
TEL：	FAX：
E-MAIL：	

リトゥンアフターワーズ It's Alright To Be Here

ここにいてもいい

山縣良和と綴る Possibility of fashion expression
written with Yoshikazu Yamagata
ファッション表現のかすかな糸口

4.27 [Sat] – 6.16 [Sun], 2024



内覧会 プレスツアー申込書

【開催日】2024年4月26日〔金〕

【時 間】午後2時 – 午後3時30分（午後1時30分受付開始）

※出展作家の山縣良和氏と担当学芸員が展示作品をご紹介します。

※下記の番号へFAXまたはE-mailにて事前にお申し込みください。

アーツ前橋 広報担当宛

FAX 027-232-2016

E-mail artsmaebashi@city.maebashi.gunma.jp

貴社名：	
部署名：	担当者：
所在地：	
TEL：	FAX：
E-mail：	

お問い合わせ先

前橋市役所文化スポーツ観光部文化国際課 アーツ前橋

【広報】酒井・石井 TEL: 027-230-1144 E-mail: artsmaebashi@city.maebashi.gunma.jp